

IRENA理事会 開会セッション

鷺尾副大臣御挨拶

(呼びかけ・自己紹介)

ラ・カメラ IRENA 事務局長、ご列席の皆様、

日本の外務副大臣の鷺尾英一郎です。本年、脱炭素社会の実現に向け数々の重要な会議が開催される中、その先鞭を切る形で、本理事会を議長国として迎えられることを、大変光栄に思います。

昨年のIRENAの素晴らしい運営を担われ、また、本理事会の開催に向け、惜しみなくご支援を頂きましたラ・カメラ事務局長、前議長国のブルキナファソ、副議長国のマレーシア、及び全ての関係者の皆様に、改めて感謝の意を表明したいと思います。

また、新しく副議長国に就任されたジンバブエに祝意を表するとともに、IRENA での議論が有意義なものとなるよう、協力していけたらと考えます。

(パリ協定の目標達成に向けた本年の位置づけ)

2020年は、パリ協定の1.5℃目標の実現に向け、日本を含む多くの国や地域が、脱炭素社会の実現に向けた野心的かつ広範囲なコミットメントを行いました。

最近の IRENA の報告書によれば、今後数十年の間にネットゼロを達成することを目標としている国は既に30か国を数えるということです。これは、世界の GDP と排出量の70%に及ぶと言われ、大変心強いことだと考えます。

そして、本2021年は、6月のG7を皮切りに、G20やCOP26など、重要な会議が目白押しな年となっております。

(IRENA の役割)

新たな政治的モメンタムが醸成されつつある中、この勢いを正しい方向に維持し、また更に加速化させる上で、IRENA への期待は大きなものがあります。

パリ協定の目標達成は、加速化したエネルギー転換を、いかに円滑に実現するかにかかっております。国際社会が最短距離で脱炭素社会を実現するためには、各国・地域の電力システムの特性を始め、様々な事情に合わせた最適な方法を導くことが重要です。このためには、政策、資金、イノベーションを総動員できる道筋を早急に作り上げる必要があります。

また、脱炭素社会を実現し、それを維持していくためには、エネルギー転換の加速化に加えて、環境、社会、透明なガバナンス、鉱物資源の安定確保や将来大量に発生する使用済み太陽光パネルの問題など、克服しなければならない課題は山積しています。

IRENA の政策提言や、コラボラティブ・フレームワーク (Collaborative Framework) をはじめとした加盟国による議論は、これら課題を解決することに大いに貢献するものです。最も多くの国が参加する再生可能エネルギーに関する国際機関として、IRENA の重要性はかつてなく高いものになっています。ラ・カメラ事務局長を先頭に、IRENA が時代の要請に更に対応してくれるものと確信しております。

(締めの挨拶)

最後に、本理事会での2日間の議論が、パリ協定の目標実現に向け意義深いものとなることを祈念して、私からの御挨拶とさせていただきます。ご清聴有り難うございました。

(了)